

第1回新しい学校づくり基本方針検討委員会 会議録

2024年7月22日 15:00~16:30
須坂市防災活動センター活動室1

- 日時 2024年7月22日(月) 15:00~16:30
- 場所 市防災活動センター活動室1
- 出席者 委員7人、事務局5人

1 開会

2 あいさつ

勝山教育長：

- 学びのあり方検討会議の提言や須坂市小中学校適正規模等審議会の答申等を受けて、今年度、教育委員会として基本方針案を作成し、保護者や地域、学校等に説明していく。その基本方針の策定にあたり本委員会を開催した。自由に意見を出していただきたい。
- 20、30年後を見据えた学びの環境を整えるための1歩をスタートしていく。
- 9年間を通した小中一貫教育を、全市的な学園構想として進めていく。

3 委員会の目的と日程について

4 委員会の委員について

5 委員長選出

6 議事 (進行：委員長)

(1) 須坂市における議論の経過等について

事務局：

- 学びのあり方検討会議、新しい学びの形(須坂モデル)、審議会答申の概要を説明
- 市民団体からの要望書等について説明

(2) 基本方針素案について事務局から説明

事務局：

- 学校再編の内容とスケジュールについて説明
- 学区の見直しと、学校ごとの児童生徒数のシミュレーションについて説明
- 小中一貫教育カリキュラムについて説明

(3) 意見交換

委員：

- 新たな校舎を建てて、統合するということか。そうでないと、規模的に現存の校舎には入らないと思う。
- 心配な点として、他市の小学校のように、一緒になったがその数年後、閉校という形は、地域の方は望まないと思う。
- 規模が大きく4～5学級となる。そうすると1つの考えとして、既存の通学区をベースにしつつも、変えてもいいと思う。
- また、人数を確保するために、スクールバスを出すことを前提に、ブロックの町を一部入れることも考えられる。他市は、当初スクールバスという話が、路線バスに変わった経緯がある。

事務局：

- 新しい学校をどこに建てるかによっても学区が変わる。現在の場所に、新たな学校を建てるとは限らない。

委員：

- 答申書では、適正規模に近づけると言っているので、東・高甫ブロックの義務教育学校がいずれ1学年1学級になったとしても、教員の乗り入れや、市費の教員配置で補うことも考えられる。

事務局：

- 東・高甫ブロックは、はじめは分離型の義務教育学校でスタートして、10、15年経ったときに一体型の義務教育学校にするもの1つのやり方。

委員

- 異年齢での学びが義務教育学校の良さでもある。教員の数の確保だけではない。

事務局：

- 再編というよりは、市全体で小中一貫教育のための学園構想を進めることが大切。

委員：

- 東・高甫ブロックの人数の先細りが心配。保護者や地域にも丁寧な説明が必要。

委員：

- 審議会では地区の区長さん方は、地域の学校という意識が強かった。100年、150年と歴史がある学校がある。そのことを踏まえると、この内容をどう説明していけば納得がえられるのか難しいところだと思った。

委員：

- 新しい施設、新しい環境ができると説得力が増すこともある。

委員：

- 吸収合併ではなく、新しい学校を作っていくということを説明していくことが大切。

委員：

- 小学校が一緒になると特別支援学級の学級数も増える可能性がある。

事務局：

- 現在の支援学級の人数は分かるが、これからの人数は推計できない。

委員：

- 次回以降、市民団体の要望書にあった山県方式についても委員会で検討したい。

(4) 次回について

次回日程は後日調整

7 その他

8 閉会